令和５年度　自己評価表　（全日制）

松山南高等学校（全日制課程）
学校番号（２１）

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く　心を耕し　言葉を磨け

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	１日平均家庭学習時間： １・２年生は、３時間以上が50%以上、３年生は、５時間以上が50%以上。(A:+50% B:+40% C:+30% D:+20%)	C	６月調査、１年生２３%、２年生１４%、３年生３%。１０月調査、１年生２５%、２年生１７%、３年生３９%。１年生、２年生ともに現状維持。３年生はさすがに増加。年々学習時間は減少傾向にある。	ＩＣＴの活用も含め、課題の出し方や提出方法を適宜見直しながら、学習時間を確保させたい。昨今の時代の風潮である「コスパ」の考えも加味しながら、何のために学ぶのかといった根本的な指導に努めたい。
		現役生の国公立大学合格者数：２５０人以上 (A:+250 B:+230 C:+210 D:+200)	A	３月25日時点での合格者は275名。	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：２０人以上 (A:+20 B:+15 C:+10 D:+5)	B	３月25日時点での合格者は18名。	高い達成目標を設定し、その目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
		全国模試平均偏差値：６０以上 (A:+60 B:+56 C:+54 D:+52)	B	進研模試で1年生57.3(3回) 2年生59.3(3回) 3年生文系55.5 理系52.7(6回)。	個別最適な学びを念頭に、ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：９０%以上 (A:+90 B:+86 C:+84 D:+82)	A	加入率は93.6%であった。	今年度の特徴として第一学年において文化部の加入者が運動部を上回る結果となった。活動時間の増加とともに、活動内容の充実を図りたい。
		体育部において四国大会出場６部以上、全国大会出場４部以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	A	全国大会は弓道男女、登山男女の4部、四国大会は弓道男女、登山男女、バドミントン女子、陸上競技、総合活動（水泳、空手）７の部であった。	球技等の団体種目の躍進を目指すべく活動時間の確保と活動内容の充実を図っていきたい。
		県高校総文祭優秀賞：６部門以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	B	放送、器楽・管弦楽、吹奏楽、自然科学（物理）の４部門であった。	文化部においても活動時間の確保と活動内容の充実を図り、部員一人ひとりが達成感を得る活動となるようにしていきたい。
豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なＳＳＨの取組により新しい価値を創生する未来創造型科学技術人材の育成	全国レベルの国際科学系コンテスト入賞数：５件以上 (A:+5 B:+4 C:+2 D:+1)	A	第67回日本学生科学賞 入選１等 第21回高校生・高専生科学技術チャレンジ　入選・佳作 ISLP International Poster Competition　入賞２件	入賞は５件だが、最終審査会まで残ったものは１件だけだったので、次年度はできるだけ最終審査会に残りたい。
		全国レベルのアイデア系コンテストへのチャレンジ：各生徒１件以上	A	目標を達成するとともに、全出品数に占めるアイデア系コンテストの割合が、昨年度に比べて50.7%→**74.8%**に増加した。	出品数の増加に比べて入賞数の増加の割合が小さい（入賞数の割合：22.6%→29.0%）ので、より研究の質を高めたい。
		理数科生徒の総合選抜型入試及び学校推薦型入試合格者数１０人以上 (A:+10 B:+8 C:+6 D:+1)	A	国公立大学10名合格、私立大学２名合格	課題研究の専門分野や、高大連携事業の経験を生かして、志望理由（マッチング）の質をさらに高めたい。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：９９%以上 (A:+99 B:+98 C:+96 D:+94)	C	１月末現在、９６．９%。コロナウイルスの流行から、「無理をしない」「無理をさせない」という考えが染みついた感がある。	出席率も大切だが、学校に来れない生徒のフォロー、学校に来ても教室に入れない生徒のフォロー等、関係機関との連携を図りながら、生徒理解に努めたい。
		重大交通事故発生件数：０件 (A:0 E:+1)	A	入院に至るような重大事故は発生していないが、軽微な事故報告は例年並みであった。	事故防止の最善策は、時間と心にゆとりを持つことだと理解させ、交通マナーも含め指導を継続していきたい。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	B	いじめと認知されるような事案は発生しなかった。	いじめにつながりかねない、ＳＮＳや「いじり」に対して、なぜ配慮が必要なのかという根本的課題について理解させ、実践できるよう啓発を続けていきたい。
		「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	B	国際フォーラム(台湾)に砥部分校と共同参加したり、造形コンテスト(文化祭)、芸術文化発表会において、定時制・砥部分校との交流機会を設けたりすることができた。	文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。
働き方改革	働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	C	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的評価できる結果であったが、教職員健康管理医から超過勤務の教職員が多いと指摘を受けた。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の即時実行により心の健康を保つ。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。